

令和8年度社会教育主事講習シラバス概要

科目名	生涯学習概論（時間数:30時間 単位数:2単位）			
目的	生涯学習及び社会教育の本質について理解を図る。			
内容・テーマ	時数	講義の種別	詳細	講師予定者の職・氏名
生涯学習振興施策の動向	1.5	オンデマンド	日本の社会教育・生涯学習振興施策の動向と最新事情について理解を深める。	文部科学省総合教育政策局 地域学習推進課
社会教育行政と社会教育主事の役割	1.5	オンデマンド	熊本・鹿児島・宮崎・大分各県における社会教育の目標および主要事業の趣旨・概要について理解するとともに、社会教育主事の仕事の魅力ややりがいについて理解し、社会教育行政および社会教育主事への関心と学習意欲を高める。	4県(熊本・鹿児島・宮崎・大分) 社会教育主事等
熊本市の公民館とまちづくり	1.5	オンデマンド	熊本市における生涯学習政策と社会教育施設、社会教育主事の役割と学習支援を幅広くとらえ、学校教育、まちづくり、生涯学習との関連性を理解する。また、公民館活動体験の事前学習として、熊本市の公民館制度について理解を深める。	熊本市社会教育主事
社会教育・生涯学習の理念	1.5	講義	社会教育・生涯学習の理論的・実証的な視座を得るための枠組みを提示し、基礎理解を深める。社会教育の理解を通して、生涯学習の理念と施策について、実際生活における学校・家庭・地域の連携・協働等の実践事例から概観する。	熊本大学大学院先端科学研究部 准教授 田中 尚人 熊本市文化市民局 生涯学習課 主幹 兼 社会教育主事 小原 恵二
益田市の暮らしとひとづくり	3.0	講義	島根県益田市は、「ひとづくり」を施策の中心にかかげた。その際、社会教育行政がその中心となり、「対話」を通して世代をつなげ、活動が生まれる仕組みが構築されていくなかで、子どもが成長し、大人も変化していくことで、ひとづくりの循環が生まれている。社会教育の様々な手法を学ぶと同時に、「対話」のスキルを身につけるワークショップをおこない、社会教育が、あらゆる行政施策のベースとなること、市民活動のベースとなること、これからのまちづくりのベースになることについての理解を深める。	NPOおむすび代表 大畑 伸幸
自治公民館の制度と機能	3.0	講義	宮崎県諸塚村自治公民館の歴史、組織、活動等を中心に学び、公立公民館との違いや、自治公民館活動の課題等について考え、そこから自分が住んでいる地域の課題等について考える。	諸塚村教育長 竹内 一久
ユースワークと青少年教育	1.5	講義	ユースワークと青少年教育は、若者の全人的な成長と社会的包摂(ウェルビーイング)をめざす社会教育活動である。阿蘇青少年交流の家では、自由な体験の場として、若者が主体的に選択・決定を行う「参加」を重視し、教育と福祉の枠組みを越えて総合的に支援する実践にとりくんでいる。阿蘇青少年交流の家におけるユースワークと青少年教育の意義と役割について概観する。	阿蘇青少年交流の家 職員
社会教育とまちづくり	1.5	演習	まちづくりとは、いつでも、どこでも、誰とでも、自ら地域課題の解決に、多様な主体の参加の下、対話を重視して協働を行う、ボトムアップ型の終わりのない地域環境改善活動である。本講では、高校生を中心に多様な主体の協働によって、熊本のまちなかの魅力を持続可能なかたちで共創しているマチノガッコウを事例に、社会教育とまちづくりのあり方について学ぶ。	熊本大学大学院先端科学研究部 准教授 田中 尚人 熊本市文化市民局 生涯学習課 主幹 兼 社会教育主事 小原 恵二
社会教育の現代的意義	3.0	講義	生涯学習・社会教育について、概念と歴史の基本的な理解やその新たな組み換え、背景となる社会状況を学び、また具体的な実践事例から、生涯学習・社会教育を社会教育主事・社会教育士としてどのようにとらえたらよいのかを自分なりに考え、それぞれの生涯学習観・社会教育観をつくる。	大正大学地域創生学部教授 牧野 篤
離島・へき地における地域の自立と教育	3.0	講義・演習	離島やへき地は地域固有のさまざまな課題を抱えながら多様な現実を構成している。それらの解説をもとに、自らの居住する地域の実態があらためてわかるようになることを目指す。その上で、離島とへき地の地域現実を参照しながら、これからの社会教育・生涯学習の創造に向けて、必要な視点や実践とはなにかを構想するために必要な知見について考えていく。	鹿児島大学法文学部准教授 農中 至
社会教育の思想	1.5	講義	そもそも教育は何のためにあるのか。どうあれば「よい」と言えるのか。この問いに、学校教育および社会教育・生涯学習の観点から答えていきたいと思う。哲学的な本質論から具体的なあり方まで、共にワクワク構想し考えていく時間にできればと考えている。	熊本大学大学院教育学研究科 准教授 苫野 一徳
社会教育に関する哲学対話	1.5	講義・演習	自分とは異なる立場や考えの人と、いかに対話し、合意形成していけばよいのか。それどころか、深刻な信念対立を目の当たりにし、対話への希望を失ってしまう。このような問題に対し、本講義では、哲学の思考法・対話法を、誰もが実践できるように「本質観取」の手法を用いて、人々の分断をのりこえ、民主主義を成熟させるための対話の極意を学ぶ。	熊本大学大学院教育学研究科 准教授 苫野 一徳
義務教育未修了者の学習権と夜間中学	3.0	講義・演習	生涯学習を標ぼうする日本社会において、学校教育から排除された人びとが存在する。義務教育未修了者は100数十万人に及ぶと言われている。2016年12月、教育機会確保法が成立し、夜間中学等への制度的支援が明記された。ようやく日本社会も義務教育未修了者の学習権保障にむけて動き出しつつある。本講義では、こうした今日の状況を紹介しつつ、課題と展望を考えていく。	福岡大学人文学部教授 添田 祥史
社会教育の歴史と法制度	3.0	講義	最初に、「社会教育」という言葉の概念を検討し、その検討に基づき、「社会教育」の歴史を古代から近代まで、学校教育の歴史と比較しながら説明する。特に近代に関しては、「社会教育」の概念の変遷、あるいは公民館、博物館、図書館の成立を説明する。また、戦後の日本国憲法をはじめ、教育基本法および社会教育法の成立過程とその普及についても概観する。	中村学園大学教育学部教授 圓入 智仁

令和8年度社会教育主事講習シラバス概要

科目名	生涯学習支援論（時間数:30時間 単位数:2単位）			
目的	学習者の多様な特性に応じた学習支援に関する知識及び技能の習得を図る。			
内容・テーマ	時間数	講義の種別	詳細	講師予定者の職・氏名
学習支援の理論と実践	3.0	講義・演習	社会教育における実践プログラムの大学生による実践例を手掛かりに立案・計画・実施・効果までを検討する。受講生の地元地域における課題意識を手掛かりに議論を進める。将来的に地域独自の実践プログラムを企画立案できることをめざす。	日本文理大学人間力育成センター長 高見 大介
レクリエーション支援の基礎	3.0	演習	本演習では、レクリエーションの基本理論や支援理論について、講義と実技を組み合わせた演習形式で学ぶ。具体的には、レクリエーションの役割や特性、指導者・支援者として意識すべきポイント、レクリエーションワークの技術、ホスピタリティやアイスブレイク手法などを扱い、最後に簡単なレクリエーションゲームも体験する。これらを通じて、学校教育や社会教育、福祉の現場で活かせるスキルの習得をめざす。	熊本県レクリエーション協会 理事長 上野 祥子
参加型学習とファシリテーション	3.0	講義・演習	本講義では、ファシリテーションの概念および社会教育領域におけるその実践について、ワークショップを通じて体系的に学修する。具体的には、「当事者」としての協働・共創が求められる理由、参加型学習環境を企画・設計する際に考慮すべき観点、プログラム開発における要点、対話を基盤とした参加型学習場面の体験、運営管理の実際等について多角的に検討し、ファシリテーション技法の理解深化を図る。	加留部貴行事務所AN-BAI 代表 加留部 貴行
学習プログラムの編成	3.0	講義・演習	社会教育における学習プログラム編成のあり方について検討する。本講義では、講座運営を活性化させる実践的手法や、企画段階で陥りやすい課題点、さらに修得した知識・技能を現場実践へと効果的に結び付けるアプローチについて考察するとともに、プログラム編成過程における目的と手段の体系的整理を行う。	加留部貴行事務所AN-BAI 代表 加留部 貴行
多様化する家庭と子ども支援	3.0	講義	イギリス、カナダ、アメリカなどの家族支援について紹介するとともに、貧困家庭に育つ子どもや同性カップルを両親に持つ子ども、外国につながる子どもなどが抱える課題を取り上げ、家族支援・子ども支援のあり方を考えたい。また、地域における子ども食堂の可能性と課題についても触れる。	熊本大学大学院教育学研究科 准教授 藤井 美保
デジタル・AI等を活用した主体的で深い学びの実現	3.0	講義・演習	本講義では、つぎの三点について詳細に解説し、あわせてグループディスカッションおよび実習形式による考察を行う。すなわち、学校教育現場におけるICT活用の先進的事例、地域社会形成におけるICT教育の役割と位置づけ、ならびに学習基盤としての「情報活用能力」の概念的枠組みについて検討する。そして本講義を通して、デジタルおよびAI技術を積極的に取り入れた主体的・深層的学習の実現方策を追究する。	宮崎県教育庁高校教育課指導 主事 上水 陽一
障害者の学びと生涯学習支援	3.0	講義	障害を持つことは決して他人事ではなく、誰にも起こりうる、もしくはすでに起こっている。そのことを前提とした多様性の尊重および共生社会のあり方について理解を深める。さらに、講師の活動経験を踏まえ、特にレジリエンスへの注目の重要性について紹介する。	熊本大学大学院教育学研究科 准教授 黒山 竜太
外国人の学習支援ネットワークの形成	3.0	講義	南九州地域における外国人への学習支援の現状について、鹿児島県の自治体やNGOの日本語教室、外国ルーツの子どもの学習支援等の事例をもとに考え理解する。また、外国人への学習支援のネットワーク形成の可能性と課題を探り、社会教育の役割について考える。	鹿児島大学非常勤講師 山下 直子
中高生の主体性を育む学習支援	3.0	講義・演習	中高生の主体性を育む学習支援について、熊本県益城町での実践や、中高生による実際のプロジェクト事例に触れる。そこから生まれた受講生の問いを元に、座談会形式で理解を深める。	一般社団法人Table共同代表 井下 友梨花
社会教育と文化的処方	3.0	講義	世界では孤独・孤立対策のひとつとして、1980年代にイギリスで発祥した「薬で人を健康にするのではなく、人と社会資源とのつながりを利用して人を元気にする仕組み」である「社会的処方」が広がりを見せている。「熊本版文化的処方」は、アートを介して誰かとの緩やかな繋がりやコミュニケーションを獲得し、新たな価値や関係を生み出すものである。本講義では一人ひとりの市民が自らのウェルビーイングを高め、社会的には寛容性や包摂性の高いまちをつくるために必要な「文化的処方」を考える。	東京藝術大学特任講師 田中 一平

令和8年度社会教育主事講習シラバス概要

科目名	社会教育経営論（時間数:31.5時間 単位数:2単位）
目的	多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決や地域学校協働活動等につなげていくための知識及び技能の習得を図る。

内容・テーマ	時間数	講義の種別	詳細	講師予定者の職・氏名
災害教育と地域マネジメント	3.0	講義・演習	自然災害が発生すると、地域にどのような影響をもたらすのか。地域コミュニティの継続性を考えながら、災害対応や復興へのかかわり方について考える。災害への備えがなぜ必要なのかを、過去の被災を例に紹介し、今のうちに行動に移す方法について考える。	東海大学文理融合学部准教授 安部 美和
社会教育における連携と協働	3.0	講義	社会教育における連携と協働の原理・原則を歴史的におさえ、今日の時代状況を読み解く。そのうえで、昨今の政策動向と現場の事例を取り上げながら社会教育主事として求められる連携・協働のあり方について講義する。	鹿児島大学法文学部教授 小栗 有子
社会教育における問いの技法	3.0	講義・演習	生成AIの台頭や新型コロナウイルス感染拡大に象徴されるように、先行き不透明で将来予測が困難な時代において、現代社会において特に必要なのは、答える力ではなく、問いを立てる力だと言われている。そこで本講義では社会教育・生涯学習における問いの立て方やその検証・調査方法、問いをつくりだすためのファシリテーション等の技法をともに学ぶ。	鹿児島大学法文学部准教授 酒井 佑輔
地域博物館のまちづくり	3.0	講義	社会教育施設としての博物館のあり方(理念、機能等)や新たな役割について学ぶとともに、地域博物館としての活動事例から、まちづくりや社会教育の実践方法について考察する。	御船町恐竜博物館学芸員 富澤 由規子
地域のネットワーク形成と社会教育	1.5	講義	家庭・学校・地域との連携・協働をはじめ、福祉、働き方、環境、防犯や防災など様々な地域課題解決に関して、自治体や学校、企業、NPOなどの各種ステークホルダーとの連携・協働を図るために必要なプレゼンテーション・ファシリテーション・コーディネート能力を身につける。	北九州市立大学 地域創生学 群 特任教員 矢ヶ井 那津 西米良集落支援従事者 富井 俊
社会教育の経営・広報戦略	1.5	講義	社会教育計画の企画・立案・運営を、持続可能なPDCAサイクルを回すことで、参加者とともに進める評価や改善にも結び付けられるよう、参加型のプロジェクトマネジメント技術・シビックプライドを涵養し、社会教育の意義をPRする力を身につける。	北九州市立大学 地域創生学 群 特任教員 矢ヶ井 那津 一般社団法人ソシオファンド北 九州 代表 菅 恒弘
公民館の経営と計画	3.0	講義	那覇市若狭公民館の取組事例および沖縄県における公立公民館調査を踏まえ、公民館の現状と課題について概観する。また、地域の実情把握を基に、地域課題や住民ニーズを仮説設定し、その解決に資するロジックモデル構築手法について考察する。具体的には、那覇市若狭公民館の実践事例を提示するとともに、沖縄県内公立公民館調査によって明らかとなった現状と諸課題について検討する。	那覇市立若狭公民館館長 宮城 潤
自治体経営と社会教育行政	1.5	講義	今日では、「合理的」な自治体経営改革が提唱され、トップダウンによって施策を推進するための方策として「住民参加」が扱われる傾向が強められてきている。しかし、地域住民との丁寧な対話と協働に基づきながら、住民主体の自治と協働の学びを支えることのできる職員集団づくり・自治体づくりに取り組んできた自治体が信州には多く存在する。また信州では、住民の生活に身近な自治公民館の活動も盛んであり、それらとつながりを持ちながら住民の生活課題に即した公民館活動が展開しているところに特色がある。これらの信州の公民館の事例を紹介しながら、自治が育つ住民の学びを支える公務労働の重要性を共有するとともに、そのような自治体づくりに向けた展望を受講生が見出すことができるようになることをめざす。	松本大学総合経営学部准教授 向井 健
学習成果の活用法	1.5	講義・演習	住民自治を育むために、学習プログラムだけではなく“意図しない学び”にも意識を向け、偶発的な学びが起きやすい環境のデザインについて考える。グループ毎に地域における課題設定と解決に向けた企画づくりを行う。その際、地域資源の活用と多様な機関や団体等との協働を意識する。グループ討議と企画発表により、地域ビジョンに即した課題設定と企画内容の妥当性について考える。企画の成果を活かすために市民参画のプロセスに着目し、どのような環境設定が必要かを考えていく。	松本大学総合経営学部准教授 向井 健
町内会・自治会経営の技法	3.0	講義	日本社会において社会教育・生涯学習政策は、地域づくりやまちづくり実践と深くかかわりながら展開してきた。その歴史を批判的に吟味しつつ、従来における地域組織の限界を踏まえ、新たな地域創造に向けた学習や実践の方策について、社会教育主事の視点からどのようなアプローチが可能かについて考察する。	鹿児島大学法文学部教授 金子 満
熊本ヴォルターズのまちづくり	3.0	講義	熊本にプロバスケットボールチームを！13年前に、なぜこのような夢を描いたのか、きっかけからチームづくり、熊本地震、その復興過程におけるbリーグの発足。一度、チームを去り、外から熊本ヴォルターズを見つめなおし、プロスポーツチームの経営と生涯スポーツの普及、熊本のまちづくりに取り組む熊本バスケットボール代表取締役社長が語る、スポーツを通じた社会教育経営を読み解く。	熊本バスケットボール株式会社 代表取締役社長 湯之上 聡
社会教育行政の戦略と経営	3.0	講義	少子化や高齢化、グローバル化、第4次産業革命の影響で地域社会は多くの課題に直面している。社会教育行政では、計画の立案・実施、事業評価や改善、多様な資金調達、多様な主体との連携協働が重要となっている。住民もサービスの担い手として参加し、新しい価値創造や幅広い連携による課題解決が求められている。また、社会教育施設は生涯学習だけでなく、地域活性化や防災拠点にも期待されており、住民参加による課題解決や地域づくり支援の強化が必要である。こうした問題意識の下、本講義では教育行政における戦略と経営について考察する。	北九州大学文学部教授 恒吉 紀寿
熊本大学のリカレント教育と地域貢献	1.5	講義	現在の地域づくりは、自然・農林水産・伝統技術・先端技術・文化といった多様な地域資源を活用し、地域の様々な職業の人が主役となり、様々な人々と共創し、人口減少が引き起こす地域課題を克服する取り組みが展開されている。そこで、人口減少のメカニズム、人口減少が引き起こす地域課題の実態、具体事例として、地域づくりを先導するNPOや企業の取り組みや、地域課題をビジネスチャンスと捉え地域課題解決にとりくむ地域企業(ローカルイノベーション)の事例を学び、新たな地域の学びと実践プラットフォームの姿(社会教育人材ネットワークとその連携)を含む、今後の地域づくりのあり方とその可能性を考えていく。	熊本大学副学長 金岡 省吾

令和8年度社会教育主事講習シラバス概要

科目名	社会教育演習（時間数:31時間 単位数:2単位）
目的	社会教育主事の職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図る。

内容・テーマ	時間数	講義の種別	詳細	講師予定者の職・氏名
本講習の目的と方法	1.5	オンライン	本講習および研究レポートの目的を理解する。講習開始までに、社会教育・生涯学習に関する学習を深め、現段階における課題意識を明確にする。研究レポートは本講習の評価とみなすことから、社会教育マインドが反映されたレポートとなるよう、講習期間を通じて感じ、考えたことを基盤にすることを求める。そのため、行政や学校の研修報告とは異なることを意識化させる。	名桜大学 教授 山城 千秋
社会教育主事の基本技術	3.0	実習	ペットボトルピザづくり体験を通して、学習者同士の相互交流を図り、社会教育プログラムの方 法と展開について実地で学ぶ。	NPO法人おむすび
研究レポート演習①	1.5	演習	研究レポートのテーマ設定、情報収集、執筆方法という一連の作業について概観し、本講習 での学びをアウトプットするための研究レポートの意義および目標を確認する。また、本講習 を受講した理由・動機から、研究レポートの問いを温めるワークショップを実施する。	日本文理大学人間力育成セン ター長 高見 大介
研究レポート演習②	1.5	演習	研究レポートに関する個人の悩みや疑問、質問に応え、全員で解決策を共有し、レポートの 内容をどのように深めればよいか考える。講師の指導だけでなく、学習者の共同学習によっ て、研究目的が不十分な点を出し合い、それをどのように解決するか熟議する。	名桜大学 教授 山城 千秋
現地研修事前説明会	1.5	講義	現地研修の目的・目標を確認し、受け入れ自治体の社会教育および生涯学習の施策と実 践、その特色を理解する。また研修の日程と注意事項についても事前に確認する。	事務局
現地研修	13.0	実習	九州の各自治体の特色ある社会教育・生涯学習事業および地域づくり、社会教育主事の役 割等について、参加型学習を通して理解を深める。	各県社会教育施設の社会教育 主事等(4自治体)
公民館活動体験	6.0	実習	熊本市の公立公民館における社会教育主事の仕事、事業・講座、団体との連携について、 一日の取り組みを通して体験学習をおこなう。単なる参観に終始せず、積極的に講座への参 加や学習者との交流をととして、社会教育主事の仕事を体験で理解する。	熊本市内公民館の社会教育主 事等(6館)
現地研修報告会	3.0	講義	受け入れ自治体での研修で学習した成果を全体で共有し、それぞれの自治体の社会教育の 実践とその個性を理解する。	熊本大学大学院先端科学研究 部准教授 田中 尚人